

令和 元年 9 月 17 日現在

機関番号：33942

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12008

研究課題名(和文) 看護ケア遂行過程におけるタイムマネジメント自己評価尺度の開発

研究課題名(英文) Development of self-evaluation tool for time management in the process of nursing care

研究代表者

足立 はる系 (ADACHI, HARUE)

修文大学・看護学部・教授

研究者番号：20298508

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間で明らかにできたことは、看護ケア遂行過程において、従来個々の看護師の内面にあった、タイムマネジメントの際に考えていた思考要素を可視化した。抽出された思考要素をもとにプレテストを経て暫定的な質問項目を60項目作成できた。全国調査により、病棟勤務看護師のタイムマネジメントに関する自己評価項目の一般化ができ、新人看護師の教育等に活用できる指標を作成できる予定である(現在全国調査結果の分析中)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって従来看護師個々の経験知であった看護ケアにおけるタイムマネジメントの際に考慮する必要のある要素や仕事における時間の使い方を可視化できた。これを一般化することで“看護ケアの進め方スキル”として実践的な技法になり得る。

研究成果の概要(英文)：What we completed during the research period were 1) visualized elements of thoughts of nurses when they manage time in the process of nursing care, which were traditionally deep in each nurses' mind, 2) created tentative 60 item questionnaire through pretest based on the abstracted elements of thoughts, 3) currently we just completed nationwide investigation. From now on, we are going to analyze data, generalize self-evaluation items for time management of nurses working inpatient units, and complete the index that can be used for educations for such as new nurses.

研究分野：看護管理学、ストレス評価

キーワード：タイムマネジメント 可視化 看護ケア

1. 研究開始当初の背景

近年、我が国の医療供給体制の変化は激しく、病院においては患者の高齢化、医療の専門分化、患者の在院日数短縮等の施策により、このような変化に対応できる看護職員の資質向上の必要性が強調されている。その中で当然のことながら、看護師の一人ひとりの仕事の質が問われるようになり、看護職員個々の優れた看護実践能力が求められている。医療現場の実践を担う看護師の看護実践は通常、仕事の管理として一日の業務遂行におけるタイムマネジメントをしながら役割を遂行している。しかしながら、複数の患者の医療ニーズや看護に応え、看護チーム或いは医療チームの一員として適確なタイムマネジメントをしながら業務を遂行する能力は一朝一夕に身につくものではない。特に新人看護師では「仕事が色々あり、時間内に終わらない等(水田,2003)」の仕事の進め方に関する問題が浮上している。経験の浅い看護師のタイムマネジメント能力の重要性は「新人看護職員の臨床実践能力向上に関する検討会」で「複数の患者のケアの優先度を考えて行動する」「決められた業務を時間内に実施できるように調節する」といったタイムマネジメントに関する能力が掲げられている(2004)。つまり看護師にはチーム医療における自らの役割遂に際してタイムマネジメント能力が必要なのである。

タイムマネジメントとは Marrell(1997),行元(2002)によると「自分の役割を効果的且つ効率的に実施するために実施すべき行為に要する時間を意識した仕事の管理である」といえる。このような能力は卒業後すぐに身につくものではなく、さまざまな経験を通して個人の経験知として身につく性質を持っている。先行研究においては、外来待ち時間の短縮(松嶋,岡山ら,2004)、生産性を高めるための時間管理手法導入効果(日下,2000)、コスト意識とタイムマネジメントの関連(森本,2004)といった報告はある。また海外の文献も若い看護師には精神的サポートが必要であること(Chiu,2007)、看護師の労働時間のうち患者のケアにどれくらい時間を使用しているかなどの時間配分に関する看護研究(Wittington,2009)はあるが、看護師の仕事における時間の使い方、業務計画といった仕事の進め方のスキルに関する研究は皆無である。また、看護職の成長過程で、どのように自己のタイムマネジメント能力を評価しながら経験を積んできたかという側面に関しても明らかになっていない。看護師のタイムマネジメント能力を支援するにはまず、臨床における看護業務遂行に必要なタイムマネジメントとはどのようなことを考えて行うのか、標準的な枠組みを明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、医療機関で働く看護師の業務遂行過程におけるタイムマネジメント能力育成のための自己評価尺度を作成し、その有用性を検討することである。

専門職である看護師の仕事マネジメントの現状は、個々の看護師の力量に依存しているが、経験の浅い看護師はその実施に苦慮している状況がある(水田,2003)。仕事の管理の仕方は状況依存性が高いが、状況が異なっても看護業務にはある種の共通性があり、本研究により、その尺度が完成すれば、尺度を活用した自己評価を重ねる事によりタイムマネジメント能

力を高める手段として活用できると考える。

3. 研究の方法

本研究は3年間で行う。まず、先行研究で明らかにした病棟勤務看護師の「看護業務遂行過程におけるタイムマネジメント思考要素」を文献検討等により、精緻化をし、「看護ケア遂行過程におけるタイムマネジメント思考要素 Ver.2」を作成した。それを元に評価指標となる具体的な項目の文章を作成し、質問紙原案を作成。一次質問紙調査を看護師150名に行い、質問紙の構造・内容に問題はないか確認し、暫定的なタイムマネジメント思考要素」を作成した。最終年度に本調査として、全国調査を実施した。今後、結果の分析を経て、「看護ケア遂行過程におけるタイムマネジメント自己評価尺度」を作成する予定である。

4. 研究成果

1年目は質的研究によりタイムマネジメントをする際の思考要素を明らかにし、2年目は抽出された思考要素をもとに、暫定的なタイムマネジメントの調査項目を作成し、プレテストを実施した。また、関連研究も実施した。それらの活動は学会において発表した。平成30年度は研究最終年度で、プレテスト結果を踏まえて、作成した調査項目を一般化し尺度化するべき全国調査の準備と実施をした。詳細は次の通りである。1)学会発表：平成29年8月日本看護学教育学会において「看護ケア遂行過程におけるタイムマネジメント思考要素探索 思考要素の再検討」を発表した。新たに2カテゴリーが追加された。また、本研究の関連研究として平成30年8月日本看護管理学会学術集会においてテーマ「病棟勤務看護師が認知するタイムマネジメントの阻害要因」を発表した。分析の結果、看護師が困難を感じていた事柄は8カテゴリー-21サブカテゴリーが抽出され、本人の努力のみでなく、組織の支援が必要であることを明らかにした。2)全国調査に向けた事前調査：暫定的に作成された質問項目を一般化するための全国調査への協力を得るために、日本の政令都市のうち日本病院協会会員名簿から病床規模300床以上の病院212病院へ調査協力の依頼をした。結果、22病院から承諾が得られた。3)全国調査：平成31年1月に全国調査を開始した。具体的には事前に調査協力が得られた22病院の看護部責任者に調査用紙を郵送し、経験3年以上の看護師30名への調査を依頼した。結果419名の調査用紙が回収された(63.4%)。現在データ入力を終え、今後結果の分析をし、最終的に本研究課題である「看護ケア遂行過程におけるタイムマネジメント自己評価尺度の開発」に向けた尺度項目を精選し、公表する予定である。科学研究費助成期間は今年度で終了であるが、尺度の基準作成等の研究を継続していく予定である。

5. 主な発表論文等

発表論文：なし、現在作成中である(研究代表者の所属変更があり、学会発表のみで、論文作成が遅れている)。

学会発表：3件

- ・平成 29 年 8 月日本看護学教育学会学術集会
演題「看護ケア遂行過程におけるタイムマネジメント思考要素探索」
- 思考要素の再検討 -
- ・平成 30 年 8 月 日本看護管理学会学術集会
演題「病棟勤務看護師が認知するタイムマネジメント阻害要因の検討」
- ・令和元年 12 月 日本看護科学学会学術集会 発表予定（採択）
演題「看護ケア遂行過程におけるタイムマネジメント思考要素 一次調査」

図書・産業財産権：なし

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：織田千賀子

ローマ字氏名：ODA CHIKAKO

所属機関：藤田医科大学

部局名：医療科学部看護学科

職名：講師

研究者番号：10773525

研究分担者氏名：近藤 暁子

ローマ字氏名：KONDO AKIKO

所属機関：東京医科歯科大学

部局名：大学院保健衛生学研究科

職名：教授

研究者番号：70555424

* 石川和美講師は平成 28 年 3 月退職、小笹由里江講師は平成 30 年 3 月に研究分担者から離脱した（多忙）。